

20230928 物価が倍以上に！今、アルゼンチンで起きていること

「ものの値段が上がったな、今まで6個入りだったのがいつの間にか5個入りになってる」そんな日々が続いています。でも、さすがに急に値段が倍になったりはしません。少し値上げするだけでも企業やお店では事前の通知を消費者に伝えてくれます。しかし、今南米アルゼンチンで起きている物価高（インフレ）と混乱は、日本の私たちの感覚をはるかに超えています。

アルゼンチンの8月の消費者物価指数は遂に前年度同月比100%を超えました（124%）。物不足に加え、通貨ペソの下落による輸入品の値上がり、物価上昇に追い打ちをかけました。毎日確実にものの値段が上がっていく、ものの値段が倍以上になりしかもその状況が続き、回復する気配がない、こうした事態は、人心の混乱を引き起こします。今月に入ってからニュースでは、各地で集団略奪が多発していることを伝えています。スーパーや商店に集団で押し入るのです。略奪に走るのは若者が多いということです。店の人がショットガンをもって略奪者を威嚇する光景も報道されていました。アルゼンチンには未来はないと、海外へ移住することを決意する人の声もありました。

原因は、深刻な干ばつによる農作物被害です。今年の3月にブエノスアイレス穀物取引所は、大豆、トウモロコシ、小麦等の主要農作物の総生産量が前年度比34.4%減になると発表しました（南半球なので日本の春がちょうど収穫期になります）。皆さんは、30年前の1993年（平成5年）を覚えていらっしゃるでしょうか（まだ生まれていないという先生もいますね）。あの年日本は異例の冷夏で、東北地方を中心に冷害が襲い、津軽地方では米の収量「0」を記録しました。翌年に蒔く種籾さえ確保できな

い農家も出て、緊急備蓄米を放出しても間に合わず、タイから「タイ米」を緊急輸入することで対応しました（1993年米騒動）。あの時は、前年度比25%減でした。今回のアルゼンチンは、34.4%減です。この干ばつが、いかに凄まじい災害であるか、想像を絶します。水力発電への依存率が高いアルゼンチンは干ばつで水力発電が稼働できない状況も起きています。こうした気候変動が、本当にグテーレス国連事務総長のいうように「NewNormal」だとしたら、この事態は決して他人事ではありません。気候変動に対してもっとも遅れていると日本は指摘されています。化石燃料を燃やして電気をつくり、ゴミはほぼ全て焼却処理しています。では、国民一人一人の意識はどうかというと、省エネや循環型のライフスタイル（たとえば家庭用コンポストを使うとか）は、あまり浸透しているように見えません。1年前、3年前より、自分はこれだけ持続可能な社会を創っていくために生活を変えている、工夫していると胸を張れる人がどれだけいるのでしょうか。私は、少なくとも去年より今年の方が、圧倒的にエアコンを使いました。前進どころか後退です。私も「化石賞」なのだと思います。でも、使わないわけにはいかないほどの暑さでした。「暑くなる」→「エネルギーを余計に使う」→「更に暑くなる」の負の連鎖に入っています。政府や国同士の対策は勿論大切です。ですが、エネルギーを使っているのも、ごみを出しているのも一人一人の人間であることを考えると、もっともっと一人一人が関心を持って、その気持ちと行動を広げて、一人が1万歩でなく1万人が1歩前進の、そして、1億人が、10億人が1歩前進の社会を創っていくことが大切と考えます。その一步の一人に自分はなりたいと思うし、一步を踏み出す子どもを育てる学校でありたいと思います。